



自然と生き物の色々な話



～実りの秋と変わり“種”～種の不思議～

実りの秋と言うとおり、涼しくなり、あたりには様々な実や種が見られる季節になってきました。皆さんは種といったら何を思い浮かべるでしょうか?朝顔の種でしょうか、それともお米でしょうか?植物にはたくさんの種類がありますが、それと同じ数だけたくさんの種があります。そして、それぞれが種を辺りにばらまくためにいろいろな工夫をしています。今回はそんな植物の種のばらまき方について少し皆さんに伝えてみたいと思います。



例えば、気がつけばズボンや靴下にくっついていて、くっつき虫(オオダイコンソウなど)はわかりやすいですね。動物の毛にマジックテープのようにくっついて辺りに種をばらまきます。

動物を利用する植物は他にもたくさんあります。リンゴやザクロなどの果物は、種ごと動物に食べてもらい種を糞と一緒にばらまいてもらうために、あのような美味しい実をつけます。

ネズミやリスはドングリを地面に埋めて、保存食にする習慣がありますが、埋められたドングリの内、いくつかは食べられずに残り、芽を出します。これも動物を使った種のばらまき方の一つです。動物を使って種をばらまくだけでも、「くっつく」「食べられる」「埋められる」といろいろなパターンがあります。

コナツと名のつく食べ物の材料となるココヤシの実などは、あの大きな塊で、一粒の種です。南の島の海辺に生えている植物ですが、海水に浮かんで、海に流されて、種を遠くまで運びます。

タンポポやカエデは、風を使って種をばらまきます。動物や風、水などを使わずに自力で種をばらまくゲンノショウコのような植物もあります。

動物、海流、風、自力と4つの種のばらまき方を紹介してみましたが、他にも重力を使って、ただ地面に種を落とすだけの植物や、雨粒が当たる衝撃を使う物、中には山火事を利用する文字通りの“変わり種”もいます。

一粒の種はちっぽけですが、自分たちの子を残すために植物はいろいろな工夫をしています。

| | | | |
|--|---|--|---|
|  |  |  |  |
| タンポポ(風) | カエデ(風) | ゲンノショウコ(自力) | ネコノメソウ(雨) |
| 風を利用して種をばらまきます。カエデはプロペラ状の種で風に乗りますが、タンポポは綿毛で風に吹き飛ばされて種を飛ばします。 | 風を利用して種をばらまきます。プロペラ状の種で竹とんぼのように風に乗ります。種が落ちる瞬間を見ると種がくるくる回る様子が見られます。 | 触ると種をくるんでいるさやをはじけさせて、種をばらまく植物です。バネのようなさやを持ち、パチンとはじけて種を飛ばします。 | 雨粒が当たる衝撃で種をばらまく植物です。雨粒があたる衝撃で種をばらまくぐらいなのでとても種が軽いです。 |